

国家の書府の珠玉の名品をデジタルで伝承する
—中国国家図書館の古典籍とデジタル図書館の構築

中国国家図書館文献デジタル化組 組長
龍偉

一、はじめに

浩瀚な古典籍は中国の歴史文化遺産であり、中華民族の数千年の文明史の教養と精華を記録し、社会の政治、経済、文化の発展を研究し促進するのに不可欠な文献であり、同時にそれ自身が大変貴重な文化財でもある。中国国家図書館は、中国国家の総書庫、全国書誌センター、国家古籍保存センターであり、中国古典籍を重要な蔵書として、それを科学的に保護し、適切に利用し、価値を発揮させ、文化を振興することは、重大かつ長期にわたる任務である。

古きを蔵するとはすなわち、古きを伝えることである。情報技術の発展とその整備は、デジタル図書館構築に重要な技術的基盤を提供し、古典籍コンテンツの開発と学術的な研究は図書館の情報サービスのレベルを引き上げるのに有効な物質的基盤である。中国国家図書館は 1987 年に中国語書誌データベースを構築し、2000 年からは計画的なデジタル資源の構築を開始し、2005 年 10 月には、中国国家図書館が主管する国家デジタル図書館プロジェクトが国务院から構築の承認を得た。このプロジェクトの全体目標は世界最大の中国語デジタル情報の保存基地と中国語デジタル情報サービスの基地を築くことである。デジタル図書館プロジェクトの主要部分を本年完成させ、来年は国家による検収を受ける予定である。国家図書館はこのプロジェクトにより、一連のデジタル資源の収集、整理、管理、サービスの技術的な支援システムを完成させる予定である。古典籍デジタル図書館は国家デジタル図書館の主要部分であり、コンテンツの作成、サービス普及、古典籍の保存、国際協力と技術研究開発などの分野において、いずれも新たな発展がある。

二、中国国家図書館の古典籍コレクション

1. 古典籍コレクション

中国国家図書館の古典籍文献は本館と北海分館に所蔵されている。現在所蔵する古典籍の善本は約 27.5 万冊（件）、宋元刊本は 1,600 余部におよび、その多くは孤本と稀覯本である。そのうち、歴代王朝の秘蔵書、および社会的な名士や民間の蔵書家から寄贈をうけたものは善本の特別コレクションのなかでもとりわけ貴重な資料である。本館の“四大貴重蔵書”である『永楽大典』、『四庫全書』、『敦煌遺書』、『趙城金藏』は国家図書館の古典籍コレクションの代表的な資料群であり、広く注目を集めている。

伝統的な経、史、子、集の四部分類に従って分類されており、館所蔵の古典籍と一万余タイトルの善本のマイクロフィルムの書誌データ（CNMARC）は、OPAC により便利で迅速な検索を利用者に提供している。

2. 特色あるコレクション

文献	概要
金石拓本	27 万余件。幅広い種類を集めており、最も古い年代のものは宋拓である。現在までに毎年 500 種類のペースで増加し続けている。
甲骨資料	335,651 件。貴重な資料であり、文献、文化財、美術品としての性質を合わせ持つ。現在、国家図書館は世界で甲骨資料を最も多く所蔵する機関である。国家図書館では甲骨の拓本作業を 2005 年末に完成している。
国内外の地図	20 余万件。古今の国内外の地図は史料、芸術的な価値を合わせ持つ。自然科学史の研究において、地図は重要な役割を担っている。
少数民族古籍	3.5 万余件。消失した民族や現存する民族の歴史的な検討と研究において重要な資料である。18 種類の少数民族の古文字と言語があり、西夏文献については中国国内の所蔵の半数以上を占めており、明清の両時代に刻印されたチベット語、モンゴル語の古典籍も大変貴重である。
新善本	1.5 万タイトル、3 万余冊。辛亥革命前後の進歩的な書籍や雑誌、マルクス・レーニンの重要著作の初期の翻訳、中国共産党成立前後の重要文献、抗日戦争期の革命根拠地や国共内戦期の解放区の出版物など、いずれも大変貴重な蔵書である。
地方文献	ある特定の地域の自然、歴史、政治、経済、人物、文化、科学、風俗、産物などについての文献であり、幅広い分野が揃い、内容も豊富で、その地域の百科全書といえる。中でも、国家図書館所蔵の旧地方志 6,300 余タイトル 12 万冊は、国内外最多の所蔵数を誇り、約 100 タイトルの明清時代の孤本の地方志はとりわけ貴重である。
家譜	4 万余冊。明代から中華民国期の家譜。血縁家族の家系とその事績を記した歴史文献である。貴重な人文資料であり、国家の歴史書、地理書とともに、中華民族の三大文献の一つである。
様式雷	清代の 200 余年にわたって、宮廷建築の設計を担当した雷氏の家系の尊

	称。設計を担当した北京の故宮、天壇、頤和園などは世界文化遺産となっている。様式雷の設計図は、清代の歴史や古代の科学技術史、とりわけ建築史、および関連の文物建築の保護と研究において、いずれも重要な価値がある。
著名人の手稿	国家図書館は1954年に正式に著名人の手稿文庫を開設し、近現代の政治家、思想家、科学者、文化的著名人、および歴史的人物の手稿を社会各界から広く集め、現在、500名の著名人の4,000余種の手稿を所蔵している。
古写真	7,000余タイトル、10万余枚。その半数以上は清代末期、中華民国時期の古写真で、内容は清末から民国初期の都市の景観、歴史的イベント、名所旧跡、さまざまな人物、服飾や民俗などに及ぶ。

3. 外国語コレクション

外国語の貴重書コレクションの主要なものは、1850年以前に出版された外国語資料、各学問分野における重要著作の重要なバージョン、発行部数が1,000冊以下の稀覯書、新しい印刷技術と装幀で刊行された初バージョンである。これらの蔵書が約7,000余タイトルあり、その中には世界的に有名な北堂図書館の外国語貴重書も含まれる。その他、G. Bouillard（フランスの鉄道技師）、Paul George von Mollendorff（1848-1901 ドイツの言語学者）、巴金（1904-2005 中国の文学者）などの蔵書もある。これらの特色あるコレクションは種類も多様で、テーマもまとまっており、所蔵者の研究の趣旨があらわれており、特定のテーマ研究における重要な参考となる意義のあるものである。

三、電子図書館建設の着実な発展

古典籍資料の種類と特徴に基づいて、国家図書館では資源構築計画を制定し、2001年には古典籍・金石拓本デジタル資源構築を端緒として、以後毎年コンテンツ更新を行っており、国家図書館デジタルポータルを通じて、全世界の利用者に中国語情報資源を提供している。それと同時に、デジタル図書館標準規範の研究、システム開発および資源共有のモデルの刷新といった方面についても一定の成果を挙げている。

1. 標準規範

漢字処理規範

コンピュータによる漢字処理の標準には、漢字属性字典、中国語文献全文レイアウト再現および全文入力XMLスキーマ、古典籍文字使用規範（計算機文字使用標準）、計算機による中国語情報処理規範、僻字（ほとんど使われない字）・避諱字処理規範な

どが含まれる。

メタデータ規則

国家図書館メタデータアプリケーションプロファイル、国家図書館メタデータマークアップスキーマ、国家図書館コアメタデータ標準、国家図書館専門メタデータ設計スキーマ、CNMARC XML、CNMARC・DC・国家図書館コアメタデータ間のマッピング、MARC21・DC・国家図書館コアメタデータ間のマッピング

コレクション別メタデータスキーマ（古文献）

拓本、地図、甲骨文、古典籍、家譜を含む専門的なメタデータ基準と記述規則。このメタデータスキーマは特定の古文献の特徴を分析した基礎の上に、メタデータ構造、拡張原則、要素定義を確定し、メタデータ記述の規則を制定するものである。

管理メタデータ

国家図書館の様々な種類のデジタル資源に対する管理ニーズを支援し、国家図書館のデジタル資源構築のそれぞれの過程における管理ニーズを満たすものであり、技術、知的財産権、ソース、デジタル化の過程やサービスなどのデジタル資源の管理と密接にかかわる内容を含む。

対象データ

国家図書館デジタル資源対象管理規範、テキストデータ加工標準と作業規範、画像データ加工標準と作業規範、音声データ加工標準と作業規範、映像データ加工標準と作業規範を含む。コンテンツのエンコード、フォーマット体系、資源の適応クラスおよび資源の収集、変換、加工、点検、パッケージ、ストレージ管理などの関連計画と管理規則を定めている。

デジタル資源長期保存規則

国家図書館デジタル資源長期保存規則は、国家図書館のデジタル資源の長期保存と有効利用のために制定されたものである。

2. 電子図書館技術の応用

先進的で成熟した技術を採用することは、デジタル図書館の持続可能な発展を成功させる保証となる。

1) 古典籍のデジタル化

古典籍はひとたび失われると再生できない文化遺産である。古典籍のデジタル化の過程においては、古典籍が内容であり核心であり、デジタル化は技術であり形式である。国家図書館の古典籍のデジタル化は、書誌のデジタル化と全文のデジタル化という二つの段階に区分される。

古典籍の書誌のデジタル化は、コンピュータネットワーク環境下における古典籍目録の存在形態であり、古典籍文献の重要情報を含み、文献の特徴に基づき、文献のタイトル、

著者などの書誌データや文献の3階層までの目次について、収録して索引作成を行ない、利用者に効率的な検索と便利なナビゲーションを提供する。

全文デジタル化は、古典籍の内容を公開対象とするもので、古典籍資源の全文に対しデジタル化処理を行なうものである。デジタル化の過程にあっては、収集のための設備、方式や、データ処理フロー、インデックスパラメータ、エンコーディングフォーマットの加工が全文デジタル化の品質にとって極めて重要になる。デジタル化技術の応用処理により、全文デジタル化は画像版、構造化されていないプレーンテキスト版、レイアウト情報を備えた画像テキスト版の3種に分けられる。

2) ソフトウェアシステム

文献デジタル化加工システム

所蔵する通常の紙媒体の文献、古典籍善本、マイクロ文献、音楽映像、特別コレクション（実物資料）等に対してデジタル化加工を行なうシステム。これは工業化された生産システムであり、集中処理することができ、一部集中・一部分散の方式でデジタル化加工を行なうこともできる。一点に集約された管理プラットフォームを通じて、多くのデジタル化加工センターについて管理することができる。標準的なデータストリームインタフェースを備えており、データフォーマット、リンク関係、データタグを統一的に管理できる。書誌データ、目次、アブストラクト、著作権情報を処理できる。このシステムには画像処理ソフトウェア、OCR処理ソフトやノンリニア編集処理などの標準的な製品インタフェースがある。スキャン（撮影）工程フロー、実物資料処理工程フロー、古典籍処理工程フロー、マルチメディア処理工程フロー、着色や模式図などの管理機能がある。

デジタル資源公開サービスシステム

現有の公開閲覧システムを統合する。利用者の読書習慣や行動を分析し、能動的に情報発信する。完成すればデジタル資源の多様性をアピールでき、また公共サービスと商業ベースの運営との関係や、知的財産権保護と知識伝播との関係を両立させることができるようになる。

デジタル資源組織管理デポジットシステム

データの永久保存、検査、バックアップ、マイグレーション、エミュレーションなどをあつかうもので、デジタル資源の長期的な保存と再利用を確実に保証するものである。

そのストレージ能力は2011年には930テラバイト、テープライブラリ1240テラバイトに達し、国家図書館の第12期5カ年計画期間（2011-2015年）に1,000テラバイトという目標をほぼ達成している。ここではオンライン、ニアライン、オフラインという3段階のストレージ方式を採用している。オンラインは最も多く利用され、最も早く提供される資源である。ニアラインはアクセスが比較的少ないもので、生産過程

データも含む。オフラインはバックアップのために用いられ、データをリストアして利用するためのものである。

資源保障のためのディザスタリカバリシステム

情報資源の安全を保証し、デジタル財産が脅威や破壊を受けることなく、非常事態にあってもデジタル資源が保存、使用できるようにするためのものである。国家図書館は国家文献戦略リポジトリの構築にディザスタリカバリシステムを組み込んでいる。現在構築中であるが、安全戦略、媒体変換、安全技術の応用といったものも含む。

3. 古典籍デジタルコンテンツサービス

1) 研究型利用者に向けたデジタル資源提供

(1) 大型古典籍文献目録ナレッジサービスシステム

「中国歴代典籍総目システム」は中国歴代 210 万件の古典籍文献の書誌情報を収録する総合的な古典籍文献ナレッジデータベースであり、収録範囲は最も広く、データも最も完備された、権威ある漢籍目録データベースである。古典籍の情報に対してクラスター分析を行い、古典籍文献中から著者、刊行時期、著者の役割、版本の特徴、装丁の特徴など様々な次元の情報について関連性を分析することを実現し、人間の手作業ではとても終わることができない作業を完成させた、古典籍文献目録のナレッジサービスシステムである。この研究プロジェクトはすでに知的財産権を持っており、高い付加価値を具えている。

(2) 古典籍デジタル資源データベース

文献データベース	データ量
民族古籍—西夏碎金資源庫 http://res4.nlc.gov.cn/home/index.trs?channelid=13	西夏古典籍書誌データ 124 件
	西夏古典籍原画像 約 5,000 枚
	西夏関連研究論文書誌データ 1,200 余件
甲骨世界 ¹ http://res4.nlc.gov.cn/home/index.trs?channelid=10	
甲骨実物データベース	メタデータ 3,298 件 ; 画像 7,532 枚
甲骨拓本データベース	メタデータ 3,321 件 ; 画像 8,051 枚
碑帖菁華 ² http://res4.nlc.gov.cn/home/index.trs?channelid=11	メタデータ 22,358 件 ; 画像 30,234 枚

¹ 甲骨の拓本および現物の画像を収録するデータベース

² 甲骨文、青銅器、石刻などの拓本の画像を収録するデータベース

<p>デジタル地方志³ http://res4.nlc.gov.cn/home/index.trs?channelid=8</p>	<p>全文画像 6,868 件 335 万ページ 全文テキスト 2,000 件, 34,000 巻, 124 万ページ</p>
<p>家譜(中華尋根網) http://ouroots.nlc.gov.cn/</p>	<p>第 1 段階の目標はデジタル家譜の総合サービスシステムを作り出し、500 以上の姓氏、20,000 件以上の家譜書誌へのナビゲーションデータと、1,000 以上の家譜文献を提供することである。</p>
<p>年画撮英⁴ http://res4.nlc.gov.cn/home/index.trs?channelid=12</p>	<p>メタデータ 278 件 ; 画像 678 枚</p>
<p>民国文献</p>	
<p>民国図書 http://res4.nlc.gov.cn/home/index.trs?channelid=281</p>	<p>メタデータ 19,173 件 ; 全文画像 20,346 冊, 420 万ページ</p>
<p>民国雑誌 http://res4.nlc.gov.cn/home/index.trs?channelid=6</p>	<p>メタデータ 4,500 件 ; 全文画像 504 万ページ</p>
<p>民国法律⁵ http://res4.nlc.gov.cn/home/index.trs?channelid=28</p>	<p>全文テキスト 8,112 件</p>

4. 一般利用者に向けた文化普及のためのデジタル資源

図書館は利用者の生涯学習と継続教育のための場である。利用者の需要を満たし、さらなる文化普及を推進するため、国家図書館のデジタルポータルサイト「華夏記憶」においては、「古典文献学」を軸に、「書籍博物館」、「古籍図書館」、「文津書院」に大別して、古典籍デジタル資源を統合した。このことにより、古典籍デジタル資源サービスを散在したポイントでのサービスからナレッジネットワークサービスへと転換し、より高度な知識探索のための手法を提供することができるようになった。

国家図書館の百年間にわたる古典籍整理と保護の経験に基づき、「華夏記憶」は既存の古典籍デジタル資源の優位性を継承し、様々な方式による、多面的、多層的な古典籍デジタル資源の提供を行っている。複合データベース、マルチメディア資源、オンライン展示、

³ 清代以前の地方志の画像およびテキストを収録するデータベース

⁴ 中国の年画(旧正月に玄関などに飾る縁起物の絵)の画像を収録するデータベース

⁵ 中華民国期に広州の中華民国軍政府や中華民国陸空海軍大元帥本営、北京の北洋軍閥統治の中華民国政府などが発した法律、法規、規範関連文献などを収録するデータベース

カテゴリーごとにブラウジングできる論文一覧など、人文学の愛好者はこのプラットフォーム上で、各自が必要な資源と情報を探ることができる。

「華夏記憶」の作成はインターネット時代の古典籍資料情報サービスの新展開を象徴している。すなわち、伝統的な古典籍情報整理と蓄積された基礎の上に、文科領域の認識モデルと研究モデルの特色を結合し、古典籍資料に含まれる様々な階層の情報を全面的に提供、ネットワークユーザーは様々な手段でこれらの情報を獲得し、利用することが可能となった。これはネットワーク情報技術と中国古典籍文献研究が効果的に結合したということであり、中国古典籍資料のデジタル化とネットワーク化サービスの洋洋たる前途を示している。

四、連携・共同構築・共同利用プロジェクト

国家図書館は1990年代より、世界主要国の図書館と様々な形でデジタル化共同プロジェクトを立ち上げ、著しい成果を収めている。われわれは共同でプロジェクトの計画を立てて、各館がデジタル資源を作成し、デジタル化の経験を互いに共有し、最終的にはデジタル資源の共同構築・共同利用を実現させた。

1. 主題文献デジタル化：国際敦煌プロジェクト(IDP)

1993年、中国国家図書館、大英図書館、フランス国立図書館、ロシアサンクトペテルブルク東方研究院、ベルリン国立図書館などが、国際協力を通して敦煌学研究を促進することを共同で提議した。そして1994年に国際敦煌プロジェクト(IDP)が正式に成立した。IDPの初期事業は修復と目録作成が主であったが、近年になってデジタル化と教育方面の事業が増加してきた。IDPの敦煌文献デジタル化事業の目標は、全ての収集品をインターネット上に公開することである。1998年10月、IDPの英文ホームページが正式に公開され、2002年11月11日には中国国家図書館の中国語ホームページが正式に公開された。このことにより、研究者は、インターネット上で高品質な文献画像や関連目録情報などを無料で検索できるようになったのである。2011年8月9日現在、ホームページ上にアップされた画像データ数は44,660件に上る(国家図書館所蔵分)。

<http://idp.nlc.gov.cn/>

2. 文化遺産の公開：ワールドデジタルライブラリー(WDL)

2008年11月、中国国家図書館の詹福瑞館長と米国議会図書館のジェームス・ビルントン(James Billington)館長が「中国国家図書館および米国議会図書館ワールドデジタルライブラリー共同協定」に署名した。この協定への署名は、国家図書館の国際化がまた大きく一歩前進したことを、そして国家図書館が世界最大の図書館と実質的に提携したことを示

す。WDL のホームページでは、世界中のさまざまな国の利用者がそれぞれの言語を使い、無料で、そしていかなる妨げもなく中国文化を理解することができる。

2009-2010 年、中国国家図書館は、手稿、古地図、古典籍善本、金石文の拓本や甲骨資料などを含む、中国国家図書館の貴重な所蔵資料 40 タイトルを WDL に提供した。

<http://www.wdl.org/zh/>

3. 海外との中国語古典籍デジタル化連携

1) ハーバード・イェンチン図書館との連携プロジェクト

ハーバード大学イェンチン（燕京）図書館の中国語古典籍善本特別コレクションは、その質の高さと数量の豊富さで世に知られている。国内外の研究者が簡便にこれらの資料を利用して研究できるようにする一方で、これら貴重な中華の古典籍をデジタル化方式でも保存するため、中国国家図書館とアメリカのハーバード大学イェンチン図書館は協議の上、これらの資源を共同で開発し、6 年以内に中国語古典籍善本 4,210 タイトル、51,889 巻のデジタル化を完成させることを取り決めた。

ハーバード・イェンチン図書館はこのプロジェクトの資源作成、組織化と伝達を担当する。これには古典籍のデジタル撮影、メタデータの作成とデータ送信などが含まれる。一方、中国国家図書館はリソース開発、保存、利用と更新を担当し、データ品質のコントロールを担い、また資金と技術的援助も提供する。プロジェクトの成果は両図書館のホームページで同等に提供される。「ハーバード大学ハーバード・イェンチン図書館所蔵古典籍善本特別コレクションデータベース」では、書名、著者名、出版情報、分類などによって多面的に検索し、分類ごとにブラウジングすることもできる。また、書誌情報は中国語と英語を併記しているため、海外の利用者にとっては更に便利である。そして、全ての書影を閲覧に供しているため、ユーザーが全文閲覧および掘り下げた研究を行う際に便利である。

<http://res4.nlc.gov.cn/home/index.trrs?channelid=724>

2) 東京大学東洋文化研究所漢籍全文画像データベース

東京大学東洋文化研究所は 1941 年に創立されて以来、多くの中国の漢籍を収集してきた。1990 年代、東京大学東洋文化研究所は漢籍目録データベースの構築を開始した。また、2002 年から漢籍全文画像データベースの構築を開始し、インターネット上で無料のサービスを提供している。東京大学東洋文化研究所の丘山新教授と北京大学歴史系の橋本秀美教授の積極的な推進のもと、2009 年 11 月に中国国家図書館と東京大学東洋文化研究所の双方が提携意向書を締結した。東洋文化研究所は、所蔵する中国語古典籍 4,000 余タイトルをデジタルデータ形式で中国国家図書館に無償提供し、中国国家図書館のホームページで閲覧に供している。

<http://res4.nlc.gov.cn/home/index.trrs?channelid=629>

3) 中華古籍善本国際総合目録システム

2009-2010年にアメリカのプリンストン大学のソーレン・エドグレン(Soren Edgren)氏が訪問学者として国家図書館の業務に携わり、国家図書館職員と共同の取り組みのもと、「中華古籍善本国際総合目録システム」を作成した。このデータベースシステムは、内容面ではアメリカ研究図書館組織(Research Libraries Group、RLG)が作成した中国語貴重書国際総合目録プロジェクトのデータベースを参考にしているが、形式上は中国の学術伝統と研究需要に合わせて調整を行った。国家図書館ホームページでは、プリンストン大学、コロンビア大学、イエール大学などの図書館が所蔵する古典籍のメタデータ 3,500件、画像 3,400余枚を提供している。

<http://res4.nlc.gov.cn/home/index.trrs?channelid=630>

五、古典籍保存

デジタル化の手法を用いて共同での目録作成と資源管理のプラットフォームを構築し、中国の古典籍保存事業の発展を促進することは、国家図書館が近年取り組んでいる価値ある試みである。

1. 中華古典籍保存計画

中華古典籍保存計画は開始して5年になり、これまでの事業を通じて、国内に現存する中国語古典籍は約17万種類、バージョンは30万を超えるという推計を立てている。国家古典籍保存センターは、現在組織的に「中華古典籍総合目録」を構築しているところであり、すでに「中華古典籍総合目録・目録整理ハンドブック」を制作し、「中華古典籍総合目録」編纂委員会を立ち上げた。近年になって古典籍のデジタル化事業は急速な発展を遂げたものの、一定程度の事業の重複、資源の浪費も存在している。国家古典籍保存センターは各省クラスの古典籍保存センター、関係所蔵機関が協力して「中華古典籍データベース」の構築を推進し、社会全体で古典籍保存事業の成果を享受できるようにする。「中華古典籍データベース」は古典籍の全文デジタル化事業として世に出ることになるが、段階的にデジタルサービスからナレッジサービスへと歩みを進め、最終的には中国の書物文化の展示と学習のためのプラットフォームを作り上げる。

2. 古典籍センサスプラットフォーム

「全国古典籍センサスプラットフォーム」は、コンピュータとネットワーク技術を用いて便利、迅速かつ効率的に全国古典籍センサス事業を展開する一方、調査の成果をすばやく一般に供することに目的を置いている。2009年にプラットフォームが完成し、センサス情報の登録、申告の管理、データ検索、統計分析といった一連の機能を実現し、専門家と

利用者から幅広い好評を得た。それによると、「全国古典籍センサスプラットフォーム」のインタフェースは使いやすくシステムの応答速度も速いため、操作が行いやすく、システムはこれまでの目録データと互換性があるので、データの完全性も保障されているとのことである。目下のところ、すでに中国の41の図書館と科学研究機関が協力して「全国古典籍センサスプラットフォーム」の構築に携わっている。

3. 海外古典籍センサス

海外古典籍センサスは、世界各地における中国古典籍の所蔵状況を調査し、国際協力を積極的に展開して、海外にある中国古典籍をデジタルデータ形式で返還してもらうことを目的としている。そのため、中華古典籍センサス計画では世界各国の図書館、大学、研究機関との提携に力を入れている。海外中華古典籍調査プロジェクト、海外中華古典籍出版資金援助プロジェクトを設立し、中華古典籍共同データベースを構築して、世界各国が中国古典籍資源の共同構築・利用に向けた活動を展開するよう奨励し、海外にある中国古典籍のデジタル形式での返還を実現する。中華古典籍保存計画は、海外の中国古典籍の返還に関する法律、返還方法などをテーマとした研究を支援している。

六、結び

中国国家図書館はその百年の歩みのなかで、文明の価値を高め、知識を広く伝え、社会に奉仕するという理念のもと、絶えまない探求、奮闘、刷新に取り組んできた。古典籍デジタル図書館の構築において、われわれは協力と開放の精神をもって事業を進め、中華文化の伝播と社会進歩の推進のために努力を惜しまず貢献を果たしていく。このたびの両館の業務交流という機会を借りて、われわれと国立国会図書館の同僚が古典籍保存、古典籍のデジタル化、デジタル化資源の長期保存、デジタル図書館の構築方法などの分野で交流と討議を行えるのは、大変光栄なことだと感じている。中国国家図書館古典籍デジタル図書館の構築とサービスにとって、またとない手本となり貴重な示唆を与えてくれることであらう。

最後に、中国国家図書館と国立国会図書館が新時代にあつて共に手を携えて進み、輝かしい未来を描き出していくことを祈念したい。